

Web アンケートを活用した授業改善の試み

—環境教育にアニメフィルムを導入した取り組み—

十津 守宏, 田中 雅章

鈴鹿短期大学 生活コミュニケーション学科

todum@suzuka-jc.ac.jp

概要：高等教育機関である大学や短大に入学する一般学生の勉学姿勢には、年々変化を感じる。それは、小学校から始まり、中学校、高等学校時代のカリキュラムの改変によるゆとり教育の影響を受けているとせいであると思わざるを得ない。そう思う理由は、学生たちは高等教育機関だからこそ受講できる難解な講義をできるだけ回避しようとする傾向が感じられる。またこのような行動傾向がみられる学生は、難解な授業内容を少しでも理解しようとする姿勢にかけているようにも思われた。

本研究では、宮崎アニメのジブリ作品を環境倫理教育教材として用いることを試みた。スタジオジブリの作品は、単なる娯楽アニメではない。目的意識を持って視聴すれば、作者である宮崎が作中の中で訴えるものが鮮明に見えてくる。それならばジブリ作品を環境学習教材として取り上げ、学生が作品中の意図を受取ることができるのか。その結果、学生はこれまでの環境意識をどれだけ変化させたのかが気になるところである。その学習効果を明らかにするためにアンケートを実施し、学習効果の測定を行った。本稿ではゆとり世代の学生でも理解が可能であろうと考えたジブリ作品が環境教育教材としての有効性を述べる。

1 はじめに

環境教育の教材として採用したスタジオジブリの作品には、子どもだけでなく大人が鑑賞するに値する作品が多い。その中でも、人間と自然との共生をテーマとした、映画版『風の谷のナウシカ』と『もののけ姫』は宮崎駿の代表作と言っても良いであろう。1980年代に発表された映画版『風の谷のナウシカ』では、ナウシカを中心として人間と自然との共生の可能性を肯定的に示している。ところが、十数年後に発表された映画版『もののけ姫』では人間と自然との共生の可能性について否定的な見解を示している。この宮崎作品の思想的変遷は、これまでの環境倫理の限界を示唆するのである。それと同時にこれからの新しい環境倫理を示唆するものでもある。

大学で使う教材としては簡単に結論づけをするのではなく、学生に問題定義を示し、問題の内容を理解した上で回答を考えさせる方が好ましい。これまでの意見を押し付ける一方的な授業ではなく、双方向の意見の交換が期待されるからである。

2 人間生活と環境科目のカリキュラム

今回、ジブリ作品を教材として採用した科目は、「人間生活と環境」である。この「人間生活と環境」は大学の一般教養として開講されている。この講義では人間と自然との共生をテーマとしている。

| 週 | 内 容 |
|----|--------------------|
| 1 | ガイダンス |
| 2 | 映画版『風の谷のナウシカ』 |
| 3 | 映画版『風の谷のナウシカ』 |
| 4 | 劇画版『風の谷のナウシカ』 |
| 5 | 劇画版『風の谷のナウシカ』 |
| 6 | 劇画版『風の谷のナウシカ』 |
| 7 | 劇画版『風の谷のナウシカ』 |
| 8 | 映画版『もののけ姫』 |
| 9 | 映画版『もののけ姫』 |
| 10 | 映画版『もののけ姫』 |
| 11 | 宮崎作品における環境倫理のパラダイム |
| 12 | 宮崎作品における環境倫理のパラダイム |
| 13 | 映画版『となりのトトロ』 |
| 14 | まとめ |
| 15 | まとめ |
| 16 | 定期試験 |

表1. 授業計画

表1のように、開設科目「人間生活と環境」では、人間と自然との共生をテーマとしている。その教材は、映画版『風の谷のナウシカ』と『もののけ姫』、劇画版『風の谷のナウシカ』を採用した。劇画版は、自宅で読んでおくことが事前の予習である。講義中は映画版の視聴とその時代背景を解説することで、内容の理解をより深める。

講義の流れとしては、大きく三つに分けられる。

一つ目は映画版『風の谷のナウシカ』を視聴して、その時代背景や作者の意図を解説した。二つ目は劇画版『風の谷のナウシカ』のポイントで、解説を行い更に深めていった。三つ目は映画版『もののけ姫』の視聴とその時代背景や作者の意図を解説した。

3 アンケート実施方法

本研究の調査対象は「人間生活と環境」を受講した教員養成系コースに在学する1年生の受講生である。調査はGoogleのWebサービスを利用してフォームを作成し、ブラウザを利用した。受講生が直接ブラウザからの入力によってデータの収集を行った。調査時期は定期試験前のまとめの週の2011年7月である。

質問項目の概要は次の通りである。(1)ジブリ作品を環境教材としての評価項目、(2)環境問題に対する考え方の変化項目、(3)環境問題に対する行動の変化項目である。そのうち、質問紙による調査項目量では選択質問が17項目、自由記述質問が3項目である。

回収したアンケート内容は入力漏れや矛盾がないかExcelの計算式と目視による点検を行った。その結果、分析対象となった有効回答は58件である。その後、アンケートの集計および統計分析には、Excel2010を用いた。

4 アンケート分析結果

本稿では、宮崎駿のジブリ作品が、環境問題の教材として、学生がどのように評価しているのかを明らかにするための結果が表2. である。その質問内容は、「宮崎駿のジブリ作品を教材に用いたことは、この講義のテーマである環境問題を考えるきっかけとして有効だと思いますか」である。

表2のように、環境問題を考えるきっかけとして有効であると回答しているのは58名中49名で、80%以上である。その結果、『風の谷のナウシカ』や『もののけ姫』などのジブリ作品は環境問題を考えるきっかけとして有効だと評価して良いだろう。受講生のほとんどは、宮崎作品を一度でも見たことがある世代である。すでに親しみのあるアニメである上に新たな視点で見ることによって考えるきっかけになったことが、このような結果になったと思われる。

| 質問項目 | 回答 | 比率 |
|-------------|----|-------|
| とても有効だった | 19 | 32.8% |
| 有効だった | 30 | 51.7% |
| 少し有効だった | 7 | 12.1% |
| あまり有効でなかった | 1 | 1.7% |
| ほとんど有効でなかった | | 0.0% |
| 全く有効でなかった | | 0.0% |
| 無回答 | 1 | 1.7% |

表2. 宮崎作品を環境教材としての評価

次に、環境問題を学習した結果、それが日常の行動に結びついているのかどうかを質問したのが次の項目である。「入学するまで、不要な照明やエアコンを消すことをしていましたか」と「この講義を受講してから、不要な照明やエアコンを消すようにしていますか」とを比較したのが、表3である。

| 質問項目 | 前 | 後 |
|-----------|-------|-------|
| 常にしている | 19.0% | 29.3% |
| よくしている | 29.3% | 39.7% |
| 少ししている | 39.7% | 27.6% |
| あまりしていない | 8.6% | |
| ほとんどしていない | | 1.7% |
| 全くしていない | 3.4% | 1.7% |

表3. 節電行動の変化

表3の結果を見ると、これまで不要な照明やエアコンを消すという節電意識が全くなかった2名が解消された。更に、不要な照明やエアコンを消す行動に改善が見られ、環境問題を考えることが、実際の行動となって現れているのが、明らかになった。

講義中では大きく取り上げなかったが、宮崎駿のジブリ作品の中では、人間平等や弱者救済についても表現されている。それが日常の行動に結びついたかどうかを質問したのが次の項目である。「短大に入学するまで、お年寄りや小さい子どものめんどうをみていましたか」と「この講義を受講してから、お年寄りや小さい子どものめんどうをみるようにしていますか」とを比較したのが、表4である。

表4の結果を見ると、これまでお年寄りや小さい子どものめんどうをみるという思いやりの意識が全くなかった1名が解消された。更に、思いやりの行動に改善が見られた。これまでは、全体的

にみてやや消極的であったのが、より積極的に思いやりの行動をするように変化したことが、明らかにになった。

| 質問項目 | 前 | 後 |
|-----------------|-------|-------|
| 常にしている | 17.2% | 24.1% |
| よくしている | 31.0% | 48.3% |
| 少ししている | 32.8% | 19.0% |
| あまりしていない | 12.1% | 5.2% |
| ほとんどしていない | | |
| 全くしていない | 1.7% | |
| お年寄りや小さい子どもがいない | 5.2% | 3.4% |

表4. 思いやり行動の変化

5 おわりに

今回の講義アンケート調査を通して、以下の事が明らかになった。ジブリ作品を教材として用いることにより、学生に環境倫理に対する「学び」の内発的動機付けを促す意味において有用である。またその動機付けを通して、学生自身の意識改革や実生活におけるライフスタイルを見つめ直すことにも影響を及ぼしていることが明らかとなった。

その要因としては、今日におけるメディア社会で養われてきた学生のメンタリティに対して映像媒体の視覚的イメージが大きな影響を及ぼしうる。また環境倫理というある意味において形而上学的な学問に対する思索的アプローチが身近なアニメ作品をその学習の契機として教材として用いることにより、容易となることがあげられる。

前述した結論はアンケート結果の自由記述覧における多数の記述からも結論付けられる。加えて、極めてポピュラーな作品であるジブリ作品は学生にとってもいつか何処かで鑑賞したことがある馴染み深い作品であり、内容・ストーリーも予め熟知していることから、作品理解へのアプローチのアンクルを変えることによって、そこに包含されている環境倫理に対するメッセージが容易に抽出可能であることから、より新鮮なものとして作品とそこに包含されているメッセージを捉えなおすことが出来ることもまたアンケート結果からは明確となった。

結論として、ジブリ作品は環境問題を考える教材として用いることは、ゆとり世代の教材として有用である。

参考文献

- [1]十津守宏, 「『ナウシカ』再考 : 劇画版『風の谷のナウシカ』における終末論その2」, 鈴鹿国際大学短期大学部紀要 22, 109-123, 2002
- [2]十津守宏, 「宮崎駿作品『風の谷のナウシカ』を通して : 環境倫理の今日のあり方についての一考察」, 鈴鹿短期大学紀要 27, 21-27, 2007
- [3]松本行弘, 「腐海の謎, 母性性をめぐる共存と破壊 : “風の谷のナウシカ” 映画版の心理学的考察(その1)」, 神戸親和女子大学児童教育学研究 24, 76-89, 2005-03-01
- [4]永野潤, 「カオスの解放 : 『風の谷のナウシカ』の構造」, 湘南工科大学紀要 33(1), 167-175, 1999-03-25
- [5]叶精二, 「『もののけ姫』を読み解く」, http://ghibli-fc.net/rabo/monoke_yo/
- [6]堀郁, 「私たちは自然と共生できるのか? : 『もののけ姫』の哲学的考察」, 総合政策研究 28, 99-107, 2008-03
- [7]福沢健, 「『もののけ姫』の神話的意味」, 流通科学研究 6(2), 64-54, 2007-03-31
- [8]福沢健, 「共生のはじまり : 『もののけ姫』の神話的意味(補遺)」, 流通科学研究 7(2), 148-143, 2008-03